

令和4年度
若手女性農林漁業者の経営改善事例集



令和5年3月
山口県農林水産部農林水産政策課

はじめに

県では、平成30年度創設した「農林漁業女子ステキ・スタイル応援事業」により、平成30年度から「ステキ女子キャリアアップ講座」、令和2年度からは「女性が働きやすい農林漁業経営体づくりセミナー」を開催し、若手女性農林漁業者の経営力向上や働きやすい環境づくりを通して、女性の経営参画推進に取り組んできました。

令和4年度の「女性が働きやすい農林漁業経営体づくりセミナー」については、『農大卒、農家の右腕になる。～小さな経営改善ノウハウ 100～』の著者で、阿部梨園のマネージャーとして大小500件の業務改善を実施されたファームサイド株式会社の代表取締役佐川友彦氏を講師に招聘し、「できることから始める小さな改善」をテーマに経営改善を学ぶセミナーを開催しました。

このたび、これらのセミナーで学んだことや本事業を活用し、女性農林漁業者が主体となって取り組まれた経営改善の成果を事例集として取りまとめました。掲載した事例は、整理収納等による農作業場や加工所の改善、規格外商品の販売力強化、オンラインによるスケジュール管理など、いずれも女性農林漁業者ができることから取り組まれた小さな改善の数々を、県内8か所の農林（水産）事務所担当者が調査、取りまとめたものです。経営改善のアイデアが詰め込まれた本事例集を、経営改善に取り組もうと考えている女性農林漁業者をはじめ、経営者や関係機関・団体、地域の皆様に御一読いただき、経営改善や女性がいきいきと働き、活躍する環境づくりの参考にしていただければ幸いです。



目 次

【岩国農林水産事務所管内】

- みんなが気持ちよく働ける環境づくりへ（のぞみファーム 隅美穂）・・・ P 1
- 加工場の改善で仕事がスムーズに（山の菓子工房 火室恵）・・・ P 3

【柳井農林水産事務所管内】

- 改善でストレス減！自分たちが楽しめる農業を
（上妻みかん園 上妻あかね）・・・ P 5

【周南農林事務所管内】

- 小さな改善100の積み重ねで見えたコト
（ふるた梨ぶどう園 古田優子）・・・ P 7

【山口農林水産事務所管内】

- 事務作業のデジタル化による省力化（株式会社江越農園 江越律子）・・・ P 9
- 整理整頓により安全で働きやすい職場に
（株式会社あぐりてらす阿知須 長尾智美）・・・ P 10

【美祢農林水産事務所管内】

- 働きやすい環境整備と情報の可視化による農園の基礎づくり
（まこっこ農園 才木祥子）・・・ P 11
- 農業と母業の両立に向けた課題整理と改善の開始
（縄田農園 縄田加奈江）・・・ P 13

【下関農林事務所管内】

- プライベートも仕事もノンストレスで（野村農園 野村みゆき）・・・ P 15
- 労働環境改善で強いチーム作りの第一歩に（畑樂 安永真理子）・・・ P 16

【長門農林水産事務所管内】

- 表計算ソフト操作技術の向上で事務作業がスムーズに
（農事組合法人あけぼのの里、株式会社三隅農場 村岡清美）・・・ P 18

【萩農林水産事務所管内】

- 働く私たちも、お客様も、快適に過ごせる「榎谷農園」へ
（榎谷農園 榎谷馨子）・・・ P 19

みんなが気持ちよく働ける環境づくりへ

- 屋号・法人名等 のぞみファーム
- 氏名 隅 美穂(共同経営者)
- 所在地 岩国市本郷町
- 生産品目 わさび、ミニトマト、葉物類
- 就農年 平成 13 年
- 経営改善のきっかけ



隅さんは、就農21年目と認定農業者の更新に合わせて、御自身が取り組める改善を検討していました。その中で、令和2年度岩国地域農家生活改善士会研修会で家族経営協定の事例を学んだことを機会に、平成14年に締結した家族経営協定の見直しに取り組むこととしました。また、令和3年度岩国地域ステキな農業女子セミナーで、整理収納を実践された事例を学び、作業場の改善に取り組むこととしました。

○経営改善の取組内容

<家族経営協定の見直し>

家族経営協定の締結時から経営品目や経営面積が変わっていたため、現状に即した経営目標を設定しました。また、夕礼で仕事の振り返りと翌日のスケジュールの確認を行う申し合わせや、メリハリをつけた生活を心掛ける「暮らし方」の項目を新たに設けて、営農と暮らしをより充実させていけるように決意を新たにされました。



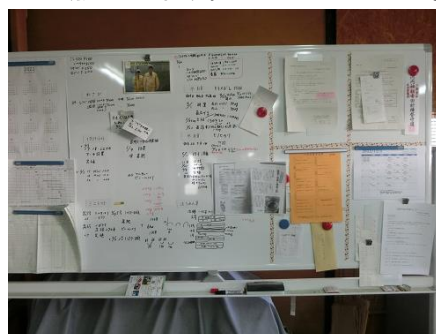
家族経営協定調印式を開催



調印式で決意表明！

<農作業場の改善>

まずは、整理収納アドバイザーに依頼して、作業場内を一緒に点検しました。作業場は、調製場や資材置き場、事務所を兼ねているため様々な用途の資材類が混在していました。そこで、それらを仕訳けて、パートさんが自主的に動ける作業場づくりに重点的に取り組むこととしました。



ホワイトボードを使いやすい位置に移動して作業状況や情報を明記しました。



段ボールの中身を明記し、使用頻度の低いものは上の段へ移動しました。

コンテナ置き場を作りました。



バーコードラベルをロール状に吊るして在庫管理をしやすくしました。



パートさんの着替え等を収納できるようにボックスを設置しました。



作業場に土埃をあげにくいように、シートや泥除けマットを設置しました。

○経営改善の取組効果

隅さんは、カテゴリーごとに整理することや段ボールに資材名を見えるように書くことで、何がどこにあるかわかりやすくなり、円滑な仕事ができるようになりました。また、ホワイトボードにメモを書くことで、わざわざノートを開かなくても御夫妻の意思疎通が図りやすくなりました。そして、バーコードをロール状に吊り下げることによって雇用者も在庫状況がわかりやすくなったことや、荷物おき等も設置したことで、気持ちよく仕事ができる環境が整いつつあります。

○今後の経営改善への取組意向

隅さんは、これらの取組を通じて「漠然と思うだけでなく、目標を持ってやるのが大切なことがわかりました」と、今後の更なる改善の意欲にもつながりました。そして、以前から検討されていた農園内での100円市の開設に思い切って挑戦されました。特に、ミニトマトの時期は、お客様が度々訪れるようになったようで、これから新たな販売手段になるように努めたいとの意向です。

加工場の改善で仕事がスムーズに

- 屋号・法人名等 山の菓子工房
- 氏名 火室 恵(菓子担当)
- 所在地 岩国市美和町
- 生産品目 米粉の焼き菓子
- 就農年 平成26年



○経営改善のきっかけ

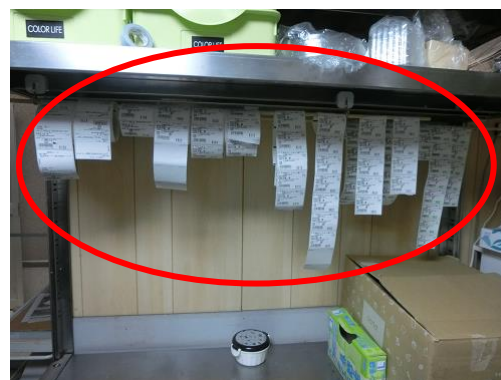
火室さんが経営改善に取り組まれたきっかけは、岩国地域ステキな農業女子セミナーで整理収納に関するお話を聞いたことです。火室さんは、加工場の中で使いかけの資材が増えて把握しにくくなることや、商品のバーコードの数がとても多く、その中から必要なものをなかなか見つけづらいこと等から余分な時間や手間がかかってしまう悩みを抱えていました。

○経営改善の取組内容

まずは、整理収納アドバイザーに依頼をして、加工場の中を一緒に点検をしました。そうすると、ご本人が思っていなかった課題も見つかりました。火室さんは加工場を引き継いだお義母さんと背丈が違うため、洗面台上の棚の高さが合わず、頭が当たって腰痛の原因になっていました。そこで、改善をしていく順番を整理収納アドバイザーと一緒に決めて、加工場の改善に取り組まれました。



バーコードが混在していましたが・・・



一目で在庫がわかり作業スペースも拡大しました。



手を洗う度に洗面台上の棚板が頭に当たると腰痛をかかめていましたが・・・



棚板を短くして、二段にすることで安全に作業ができる空間ができました。



厨房から包装室の出入口の引き出し収納BOXや棚が当たり、行き来しづらくなっていました。



引き出し収納BOXを移動させ、棚を上に移動することで行き来しやすくなりました。



必要のない物を撤去し、食品をまとめて収納できるように配置して在庫管理の効率化を図りました。

○経営改善の取組効果

火室さんは、“仕方ない”と思って、そのままにしていた箇所を、ご家族の協力も得て改善したことで、在庫管理や作業効率、身体の負担が改善されました。そして、作業効率が上がって隙間時間が生まれることで保育園のお迎えに早く行けるようになりました。

○今後の経営改善への取組意向

火室さんは、子どもさんがもう少し大きくなったら、商品のレパートリーや販路を広げて、ご自身の加工活動のコンセプトである「親子のちょっとした楽しみになるようなお菓子づくり」を更に充実させていきたい意向です。

改善でストレス減！自分たちが楽しめる農業を

- 屋号・法人名等 上妻みかん園
- 氏名 上妻あかね
- 所在地 周防大島町
- 生産品目 温州みかん、はっさく、レモン、ネーブル
- 就農年 平成 28 年



○経営改善のきっかけ

就農して6年が経過しました。これまでは経営確立に向け、ひたすらみかんと向き合う日々でした。

みかんを出荷するまでの一つ一つの工程に、「ここをこうしたらスムーズだけど」と思うことがありましたが、日々のあわただしさと、めんどくさい気持ちからなかなか実行に移せずにいました。

令和4年度に佐川さんが講師の「女性が働きやすい農林漁業経営体づくりセミナー」に参加して、小さな改善の大切さを学び、実行に移すきっかけを持つことができました。

セミナーに参加した仲間との情報交換の中で、仲間の頑張りを聞き、刺激を受けながら、一つずつ改善に取り組むことができました。

○経営改善の取組内容

①それぞれの収納場所づくり

商品発送までのこまごまとした道具の定位置が決まっていませんでした。

ラックの空いているところに物を置いて、奥にある物が取り出しにくい状態でした。

使用頻度の高いものから作業の効率化を考えながら整理整頓、収納場所づくりを行いました。

作業台も収納棚に変え、ガムテープなどかさばるものも邪魔になることなくストックできるようになりました。



改善前



改善後

②作業靴置き場の設置

作業靴置き場がなく、いつも脱ぎっぱなしで、散らかっていました。

雨の日に足袋が濡れてしまうこともしばしば…。

靴箱を設置するだけで解決するならもっと早くにしておけばよかったです。



③消費者とのコミュニケーション

3年前につくったショップカードを見直しました。栽培を続けるうちにお客様に伝えたいことが変化し、今の私たちの思いを伝えるために作り直すことにしました。

また、マルシェ等に出店し、お客様と接する機会を増やしました。

みかんを栽培している私たちの雰囲気やみかんや農業に対する思いを知ってくださる方が増えてとてもうれしい気持ちです。



マルシェへ出店



ショップカード

○経営改善の取組効果

今までは「まあいっか」や「作業が一段落したらやろう」と思うだけで、行動には移せませんでした。紙に書くことで、タスクに追加され、目をつむっていたことをやるよい機会になりました。今まではたんと作業をこなしていただけだったんだ！と自覚させられました。

○今後の経営改善への取組意向

・日々の中で引っかかっていた小さなことを改善行動に結びつけることで前向きに取り組むことができました。

・今回培われた“改善脳”を目いっぱい活かして、現状に満足することなく常に疑問を持つことで、自分のためにもお客様のためにも作業内容、栽培方法など考えてすすんでいけるように成長していきたいです。

・先のことを考えることはあまり得意ではないが、このような機会に改めて夫と話すことができたことはとても有意義でした。経営の目標、お互いの目標を共有できて、今後もかんばろうと思います。

小さな改善100の積み重ねで見たコト

- 屋号・法人名等 ふるた梨ぶどう園
- 氏名 古田優子
- 所在地 周南市
- 生産品目 梨、ぶどう
- 就農年 2011年



○経営改善のきっかけ

果樹経営の中で、重いものを持つ作業が続くことでの腰痛問題や、規格外商品が出ること、また宅配便の出荷・事務作業のミスが多く、効率が悪いことなど多くの問題を感じており、自分なりに工夫をしていたが、課題解決が進んでいなかった。

令和4年度に県の「女性が働きやすい農林漁業経営体づくりセミナー」に参加し、仲間と共に経営改善について研修を受けたことがきっかけで、改善に取り組むこととなった。

○経営改善の取組内容

(1) 収穫・調整作業による腰痛問題…高齢化に対応した作業方法の改善を実施

- ・梨を収穫したコンテナを2人1組で運搬するルールづくり
- ・電動剪定鋏、電動のこぎり、チェーンソーの導入
- ・作業補助ベルトやアシストスーツの導入

(2) 規格外商品等の販売力の強化

- ・規格外の粒ぶどうを販売する時、「値引きすると、お客様が翌年から値引きを待つようになるため、増量でお得感を出したほうが良い」。という講師の助言で、「期間限定 増量中♥」シールを作成して貼付



良い」。という講師の助言で、「期間限定 増量中♥」シールを作成して貼付

期間限定
増量中



アシストスーツ着用

(3) 梨の差別化商品とおすそ分け用包装紙の作成



- ・新たな加工品開発として規格外のぶどうと梨のシロップを委託製造

(3) 出荷・事務作業の効率化

- ・便利道具を購入…お札カウンター、三つ折り機など
- ・事務3人体制(ファックスで注文受付、PCで送り状起票、起票後のチェックと商品ごとのボックス仕分け)を実施した。
- ・顧客ごとのA4ファイルが5年分をまとめており動かすのが重いので、棚から動かすのを止めて、前年だけの資料を入れた4冊の青いホルダーを作成し、受注時にホルダーから抜き出して注文内容を書き込むように変更した。



以前の5年分のファイル



前年度分だけのホルダー

○経営改善の取組効果

- ・電動の器具を導入した結果、作業の効率が非常に上がり、身体への負担が減少した。特に母(70歳代)は作業が楽になり、高齢でも持続可能な農業になりつつある。
- ・ぶどう粒の袋詰め増量販売で、1ヵ月で35万円の売上増となった。
- ・事務出荷作業効率化で、発送が例年より早く順調に進み、問い合わせや苦情電話が激減した。また重いファイルを動かさないことで置き場所に悩むこともなくなり事務作業がスムーズになった。
- ・お裾分け用の包装紙(品種や保存方法などの情報も盛り込んだ)を作成し、宅配便に同封し、顧客から喜ばれた。
- ・新たな加工品2商品が、JR 徳山駅の TSUTAYA 等で販売開始された。
- ・全体売上が増加した。



新たな加工品シロップ

○今後の経営改善への取組意向

短期・中長期の改善計画を作成し、計画的に経営改善に取り組む。

(1) 短期目標(2年以内)

- ・高齢化に対応した作業方法の改善
- ・購買意欲のわく店舗づくり
- ・規格外品や余剰品の売売
- ・PCデスクトップの整理
- ・梨加工品の新たな販路開拓
- ・便利な電子機器の導入による作業の効率化

(2) 中長期計画(5~10年)

- ・新たな雇用を探し続ける
- ・作業マニュアル作り
- ・果樹棚の設備更新
- ・秀品率や人気の高い品種への移行
- ・年間20日の休日取得
- ・顧客満足度の向上とブランド力向上
- ・地球温暖化対策(品質管理)
- ・園地継承に向けての準備

事務作業のデジタル化による省力化

- 屋号・法人名等 株式会社江越農園
- 氏名 江越律子(取締役)
- 所在地 防府市
- 生産品目 トマト
ストック、トルコギキョウ、ひまわり
小松菜、小菊、ブロッコリー
- 就農年 平成19年



○経営改善のきっかけ

「女性が働きやすい農林漁業経営体づくりセミナー」に参加し、講師のアドバイスにより、取り組むこととした。

○経営改善の取組内容

- ・給与支給を現金渡しから口座振り込みに変更
- ・第1、2農園の毎回の収穫量の記入を手書きからパソコン入力へ変更

○経営改善の取組効果

- ・給与準備の時間を削減できた。
- ・収穫量集計表をGoogleスプレッドシートで作成し、第1、2農園の従業員で共有できるようになった。月末の集計作業を短縮できた。

○今後の経営改善への取組意向

(短期)

- ・週に一度、経理事務をする。
- ・ネットバンキングができるようにする。
- ・銀行口座をクラウド会計ソフトと連携させる。

(長期)

- ・事務関係の仕事を徐々にスタッフに移行する。
- ・第一農園に事務仕事ができるコーナーを設置する。

整理整頓により安全で働きやすい職場に

- 屋号・法人名等 株式会社あぐりてらす阿知須
- 氏名 長尾智美(取締役、加工事業部長)
- 所在地 山口市
- 生産品目 水稲、麦、大豆、サトイモ、ダイコン、ニンニク
加工品(寒漬、かき餅、ピクルス)
- 就農年 平成24年



○経営改善のきっかけ

「女性が働きやすい農業経営体づくりセミナー」に参加し、経営改善の事例や、講師のアドバイスにより、取り組むこととした。

○経営改善の取組内容

- ・農山漁村女性活躍支援アドバイザー派遣制度により、専門(整理整頓)の講師からの指導を受けながら、事務所及び農業倉庫の整理整頓を実施
- ・事務所内の私物の撤去、従業員用の収納スペースの設置
- ・掃除当番表の作成

○経営改善の取組効果

- ・不要なものを除去することで、動線や収納スペースを確保できた。
- ・それぞれのモノや道具の置き場を決めて管理することで、物を探す時間のロスがなくなり、時間と心に余裕ができた
- ・掃除当番を決めることで、整理整頓を維持する体制が整った。

○今後の経営改善への取組意向

<短期>

- ・各リーダーの育成
- ・新事務所、加工所、農業倉庫、女性専用休憩室の建設
- ・ホワイトボードを活用した作業効率の向上
- ・SNS 発信による事業拡大
- ・作付面積拡大による雇用の拡大

<長期>

- ・次世代の経営者育成
- ・加工所事業の拡大
- ・事業継承
- ・新役員の選出

働きやすい環境整備と情報の可視化による農園の基盤づくり

- 屋号・法人名等 まこっこ農園
- 氏名 才木祥子
- 所在地 宇部市小野
- 生産品目 白ネギ、ミニトマト、スナップエンドウ、
ハウレンソウ
- 就農年 平成 21 年



○経営改善のきっかけ

祥子氏は、雇用、会計、販売管理を行いながら農作業に携わり、家庭や地域においても重要な役割を担っており、心身ともに余裕がない状況であった。また、規模拡大の意向があるが将来について具体的に考えるまでに至っておらず、この状況を改善したいという意向があった。そこで、農業コンサルタントの佐川友彦氏に依頼し、課題の整理を行い、できるところから経営改善に取り組まれた。

○経営改善の取組内容

1 経営課題の整理

＜問題点・課題＞環境の整備(雇用、会計、職場環境)、情報の可視化、経営分析、ライフワークバランスの改善、面積における利益の最大化

→2022 年は環境の整備と情報の可視化を重要課題に位置づけた。

2 改善の実践

(1)環境の整備

・作業場の整理整頓

整理収納アドバイザーに依頼し、本人、夫、友人2人で作業場の大掃除を実施。複数で取り組んだことで、前向きに取り組め、長年の懸案事項が無くなったことから、気持ちが楽になり、改善活動の第一歩としてのターニングポイントになった。また、プロの指導により、マインドからの片付けメソッドが理解でき継続性につながった。



・顧問税理士と契約

クラウド会計対応の税理士が見つかったことから、顧問契約した。祥子氏はクラウド会計ソフト「freee 会計」を活用し記帳から申告まですべてやっていたが、自己流のため、疑問に思っても、そのままになっていることが多かった。顧問契約したことから、会計管理の不安が日々解消できるようになり、気持ちの余裕、時間の短縮につながった。

・雇用の確保

農閑期の4月を「雇用キャンペーン月間」と決め、求人募集を実施された。5人採用(現在継続2名+新規1名)につながった。いつかしようと思っけていても農繁期には手が回らないため、キャンペーン月間を決めて取り組むことで実現できた。

・就業規則の検討

雇用者に長く働いてもらう環境の土台作りとして、社会保険労務士に相談し交通費支給、昇給制度等含む就業規則を検討した。法律上必要なことを学び、雇用者が働きやすい体制の整備につながった。

・メモマニュアルの導入

今まで祥子氏がやっていた業務を分解して、手軽に作成できる「メモマニュアル(メモ書き程度のマニュアル)」を作成し、雇用者に業務を依頼。やるべき仕事に集中できるようになり、結果的には収量アップにもつながり、祥子氏は、昼休み時間が確保できるようになった。

(2)情報の可視化

・記録と集計

Google フォームを活用し、日々の出荷量の記録を習慣化したことで、情報の可視化と共有ができるようになった。夫婦で月ごとの作物毎の評価ができるようになり、農園の伸びしろがどこにあるのか検討できるようになった。

(3)その他(作業の効率化)

・カード決済の導入

レシートの整理と記帳の作業が無くなり、会計処理時間の大幅短縮につながった。

・折り畳みコンテナ導入

皮むき後のネギ入れを普通のコンテナから、折り畳みコンテナに変更することで、葉切り時間が50%短縮された。

・百均フル活用

ものの置き場、靴の置き場など、百均のカゴ等を活用し、ものの位置を決めておくことで、考えずに整理できるようになり、整理整頓の継続と探す時間の減少から作業の効率化につながった。

・一場所に一アイテム

必要な場所に必要最低限のもののみを配置することで、作業の効率化と経費削減につながった。

○経営改善の取組効果

日常生活の中で、ストレスに思うこと、気になること、後回しにしていることと日々向き合い改善に取り組むことでストレスも減り、作業の効率化や時間的余裕が生まれた。

祥子氏の業務が任せられるようになったことや生産、会計、労務などの整備が少しずつできたことで、夫婦2人で農園の外郭がはっきり見えるようになり、将来についても検討できるようになった。現在、5年後を目標とした中期経営計画を作成中。

○今後の経営改善への取組意向

(1)短期改善計画:2023年は、「可視化から見える化へ」を目標に取り組む。(具体的には、記録→分析→検討のサイクルを回すことを軌道に乗せる。簡易版就業規則を完成させる。メモマニュアルの文章化等。)

(2)中長期改善計画:「次代に繋ぐための組織づくり」を目標にし、5年後を目途に、家族経営から法人経営を意識して、一つ一つ整えていく。(雇用体制の整備、機械庫農薬庫などの環境整備、安全に働ける職場環境の整備(GAP)、メンテナンスや更新のための資金運用等)

<今後への想い>できないことのほうが多いしなかなか集中して取り組めないストレスもある。やりたいこともたくさんある。大きな目的地に近づくように一日一日を積み重ねるしかない。やらないと変わらない。本気で取り組めば見たことのない景色が見えるようになるはず。

農業と母業の両立に向けた課題整理と改善の開始

- 屋号・法人名等 縄田農園
- 氏名 縄田加奈江
- 所在地 宇部市妻崎開作
- 生産品目 アスパラガス、菊、その他
- 就農年 平成 27 年



○経営改善のきっかけ

農業も母業も懸命に取り組んでいるが、子供も小さく、とにかく忙しい状況であり、思うようにやりたいことができず、その状況を改善したいという思いがあった。そこで、農業コンサルタントの佐川友彦氏に依頼し、農業と母業を分けて課題の整理を行い、できるところから改善に取り組むこととした。

○経営改善の取組内容

1 農業と母業の課題整理

農業と母業の課題は交錯しているが、あえて分けて書き出すように意識し、整理された。また、何のために経営改善に取り組むのか、経営改善を得てどのような状態になりたいのか、いつまでに達成するのかを併せて整理した。

<問題点・課題>

- ・農業：複合経営ゆえの作業の複雑性、農作業と家事の両立、栽培技術の向上、収益の向上、会計管理の充実 等
- ・母業：家事負担の大きさ、習い事など送迎時間、体力気力低下、子どもとの時間の充実、家計管理の充実 等

2 改善のアイデア出し

日々の仕事や生活の中で、ふとした時に思いついた「ここを良くしたい」、「いつか克服したい」といったようなアイデアを集め、整理された。頭の中にあるものを書き出し頭の中を空っぽにすることに注力し、改善アイデアを 100 件ほど整理した(うち 5 件改善実施)。

3 改善の実践

(1) 課題やアイデアを共有

ホワイトボードや手書きのものは画像保存し、LINE、Excel、手帳で別々に記入していたものをノーションアプリで整理し、夫と共有し、一元管理できるようにした。

(2) 環境整備(仕事場、家庭)

作業場は先輩農家から学んだ、作業導線に合わせた器具や機の配置に模様替えをした。必要最低限のもの以外は置かない整理整頓を実践した。作業が効率的にできるようになり、心身共に負担が減り、捨てるときに困るものは買わなくなり、経費削減にも結びついた。家庭では、基本は自分でできるようにすることを目標に、片づける場所を決め、共有スペースにはものを置かない等のルールを決めた。また、お掃除ロボや食洗機、家計管理アプリ等の活用も積極的に行うことで、家事の効率化に向けた環境づくりを進めた。

(3) ほ場マップの作成

複合経営で栽培品目が多いため、除草や薬剤散布などの作業の進捗状況がほ場ごとでわかるように、ほ場マップを Google earth で作成し、ホワイトボード及び携帯で夫と共有できるようにした。



ほ場マップ

(4) 季節ごとの時間割作成

季節によって作業内容が変わるため、季節ごとの時間割を作成した。併せて、雨の日に実施する作業の時間割を作成。効率的に時間が使えるようになり、プライベートの時間も確保できるようになった。また、雨の日にムダな時間を過ごすことが無くなった。

(5) やることを Google カレンダー日時指定し共有

やることを Google カレンダーに日時指定して記入することで、夫とリアルタイムで共有できるようにした。忙しくて話ができないときでも、スケジュールを調整することができるようになった。また、アラーム機能を活用し、発注等のうっかり忘れの防止、共有することで、二重チェックにもつながった。具体的な行動予約ができることで、覚えておかなくてよい気楽さが生まれた。

○経営改善の取組効果

農業と母業に分けた課題整理や経営改善の目的や理想、目標を取りまとめることで、やることが明確になり、ストレスが軽減された。

改善アイデア100件を整理することができ、経営改善を常に意識できるようになった。

また、できることから改善を実践することで、効率的に時間が使えるようになり、時間や気持ちに余裕がもてるようになった。

○今後の経営改善への取組意向

2025年(就農10年目)までに、発案した100+αの改善を実施する予定である。

<今後への想い>

鳥の目・虫の目で視野を広めつつ、農業に真摯に取り組み、同時に、著しい成長を見せてくれる子どもとの時間も大切にしたい。今が一番若い！まずはやってみる！まだまだ臆せず、カイゼンの宝庫あり。「凡事徹底」小さなカイゼンをかき集めて、農業と母業の糧にしようと思う。

プライベートも仕事もノンストレスで

- 屋号・法人名等 野村農園
- 氏名 野村みゆき(生産・出荷調整・労務・経理)
- 所在地 下関市
- 生産品目 オリエンタルユリ、スカシユリ、トルコギキョウ、
水稲
- 就農年 平成 28 年



○経営改善のきっかけ

農業の経営継承、経営の最適規模を検討する中で生産や販売面での改善の必要性を感じていた。佐川友彦氏が講師を務めるセミナー「できることから始める小さな経営改善」に夫を誘って参加し、夫婦で日々の作業を見直し、小さな改善から始めることにした。

○経営改善の取組内容

(1)各自の予定や持っている情報の見える化

大きなホワイトボードを購入し、作業場に設置。夫婦で次のことを記入するようになった。

- | | |
|-----------------|----------|
| ・各自の行事予定 | ・球根の入庫日 |
| ・今日絶対しないといけない仕事 | ・近日の仕事 |
| ・雨天の仕事 | ・直売所在庫目安 |
| ・直売所在庫 | 等 |



予定が家族やスタッフ全員に見える形になった！

(2)ホースの軽量化

今までは、灌水作業でホースを 40m 引っ張るのが重くてきつかった。灌水に使うホースの径を 25 mm からユリは 22mm、トルコギキョウは 19mm に変更。

○経営改善の取組効果

(1)各自の予定や持っている情報の見える化

- ・見通しが立てやすくなり作業や休みの予定が組みやすくなった。
- ・家族やスタッフが隙間時間に考えなくても動けるようになった。
- ・家族やスタッフが指示なしでも動きやすくなった。
- ・買い物忘れが減りスムーズに仕事ができるようになった。

(2)ホースの軽量化

ホースの径を変えることでホースが軽くなり、女性でも灌水作業がしやすくなった。

○今後の経営改善への取組意向

小さな改善が次の改善に繋がり大きな効果を生む事を体感しました。佐川さんが来訪された時のミーティングは家族にとってもスタッフにとっても同じ時と場所で情報や思いを共有する貴重な体験でした。家族経営だとなかなかこういった時間を持つことができませんが、この体験をもっともっとスタッフと共感し、一体となった生産体制を築きより良い経営体となれるよう頑張ります。

労働環境改善で強いチーム作りの第一歩に

- 屋号・法人名等 はたらく 畑樂
- 氏名 安永眞理子(販売・企画・広報・労務・経理)
- 所在地 下関市
- 生産品目 季節の野菜 40品目100品種以上
(農薬・化学肥料不使用 露地栽培)
- 就農年 平成 28 年(Uターン 夫婦で新規就農)



ショッピングセンター内の
青果物売り場陳列棚

○経営改善のきっかけ

少量多品目の生産に取り組んでおり、調製・出荷に係る労力に課題を感じていた。また、主体的に考えて動けるスタッフを育成したいと考えていた。

○経営改善の取組内容

佐川友彦氏が講師を務めるセミナーに夫とともに参加して以下の取り組みを進めた。

(1) スタッフの労働環境改善

- ①スタッフの面談を行い、日頃思っている事や希望などをヒアリングした。
- ②貢献してくれるスタッフの時給をUPした。
- ③全員に野帳メモを支給し、日々の気づき等を記録してもらうようにした。
- ④人員を2人増員した。
- ⑤スタッフ懇談会を開催した。

(2) 販売

畑樂が独自に作成・管理している陳列棚(ショッピングセンターの青果物売り場内に設置)を月1回、定期的に掃除するようにした。

(3) 包装作業

多品目の野菜を取り扱っているため、その日収穫した野菜や出荷先に合わせて包装を変える必要があり、熟練スタッフと新人スタッフで包装作業のスピードに大きな差があった。包装作業の効率化、スピードアップを図るため、全員の作業風景を動画で複数品目撮影し、スタッフと一緒に動画を見て、意見交換を行った。

○経営改善の取組効果

(1) スタッフの労働環境改善

コロナ前はスタッフとのランチミーティングなどの懇談をよくやっていたが、ここ数年色々出来なかった。再び、スタッフの話を聞くことの大切さを意識するようになり、スタッフへのケアの気持ちがUP。強いチーム作りとしての第一歩となった。

(2) 販売

売場陳列棚の埃や汚れなどがなくなり、気持ちのよい売場となった。納品をスタッフに任せるようになってから売場に行く事が減っていたが、定期的に行くようになったことで、問題点をきちんと把握でき、取引先とのコミュニケーションも復活した。

(3) 包装作業

作業風景を動画で客観的に見ることができ、新人スタッフが熟練スタッフからノウハウを学ぶ機会になった。また、身体の使い方や物の配置について、改めて全員が見直すことが出来た。体格や利き腕などの違いがあり、スピードアップする方法は一律に同じには出来ないが、スタッフ一人一人がスピードアップするためのヒントをつかむことが出来た。

○今後の経営改善への取組意向

現場で働いてくれるスタッフにも経営の改善点を見つけて貰えるよう、スタッフを育成していく。また、スタッフの働く環境を改善し、意思の疎通をしっかりと図り、一人一人が主体的に動く強いチーム作りを進めていきたい。

表計算ソフト操作技術の向上で事務作業がスムーズに

- 屋号・法人名等 (農)あけぼのの里、(株)三隅農場
- 氏名 村岡清美(事務担当職員)
- 所在地 長門市
- 生産品目 水稲、大豆、作業受託
- 就業年 平成21年



エクセル操作の指導を受ける様子

○経営(事務)改善のきっかけ

- ・(農)あけぼのの里、(株)三隅農場の事務担当として、作業受託の実績及びその請求書の発行作業がスムーズに行えずに時間と労力がかかっていた。
- ・経理の事務作業に表計算ソフト(エクセル)を使っており、ピボットテーブルの機能が有効だと判断したが、十分に使いこなすことが出来なかった。

○経営(事務)改善の取組内容

- ・山口県長門農林水産事務所農業部職員からピボットテーブルの使い方や事務作業への活用法について実際の操作を行いながら指導を受けた。(2回)
- ・家族(夫)からも、エクセルのマクロ機能を活用することの提案があり、プログラム設定支援等の協力を得ている。

○経営(事務)改善の取組効果

- ・指導をきっかけに自身の学習を深めることができ、ピボットテーブルの使い方を含め、エクセル操作等が上達し事務作業が効率化された。

○今後の経営(事務)改善への取組意向

- ・集計作業の効率化は進んだと感じているが、ワープロソフト(ワード)への転記が出来ないことがあるので、今後も自身の学習を継続するとともに家族や山口県長門農林水産事務所等の支援を得て事務の効率化を進める。
- ・一緒に働く仲間が増えて欲しいので、法人に加工事業等の新たな事業を起こすことや女性でも働きやすいような環境整備に取り組んでいきたい。そのためには、提案・実行する能力を高めるとともに、法人運営の意思決定に関わる必要があるため、法人役員になることを目指したい。

働く私たちも、お客様も、快適に過ごせる「榎谷農園」へ

- 屋号・法人名等 榎谷農園
- 氏名 榎谷 馨子
- 所在地 萩市
- 生産品目 イチゴ、オクラ、リーフレタス等
※年間 100 種類以上の野菜を生産
- 就農年 令和2年



○経営改善のきっかけ

介護の仕事をしながら、休みの日に農業を手伝っていたが、令和2年2月に介護の仕事を正社員からパート勤務へ変更し、農業を中心に働くようになった。令和4年、新規事業の開始に伴い介護職を退職し、農業に専念している。

榎谷農園は、家族経営であり、夫と義父母、パート約6名でイチゴを中心とした野菜、果物等の生産をしている。令和4年に新たに野菜の小売業を開始し、配達等で負担が大きくなった夫の補助から、いずれは生産部門の主担当として農業に従事していきたいという思いを持っている。

「R3年度女性が働きやすい農林漁業経営体づくりセミナー」の受講をきっかけに、いちご狩りの対応等、家族経営において自身が担当している業務内容を中心に、日々の気づきから出てくる課題を整理し、実践できることから改善に取り組んだ。

○経営改善の取組内容

1 仕事の効率化・隙間時間の有効活用

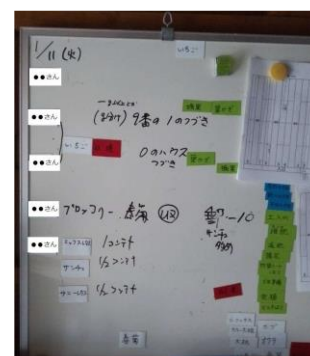
栽培計画に沿って、その日の作業内容は明確化されているが、夫や私が配達等で不在の時間に、早く作業が終わった際に隙間時間が生じる。

(1)「ToDo リスト」の活用

- ・個々の作業情報やどこで何の作業をしているかを把握する。
※デジタル化を計画したが中止。義父母でも対応できるように、ホワイトボードを活用している。

(2)「ToWeek リスト」の活用

- ・「一週間以内にやっておきたいこと」を書き出して共有し、隙間時間ができたときに、すぐに実施できるようにする。
- ・隙間時間でやってほしいこと(出荷前の準備:箱折りやシール貼り等)を書き出して共有し、隙間時間に作業できるようにする。
- ・ハウス内の作業も別紙に書き出し、明確化する。



榎谷農園のToDoリスト

2 「いちご狩り」向け農園場所の案内方法の改善

令和2年3月から観光農園(いちご狩り)を開始した。現在、受付は「じゃらんネット」のみで対応しており、電話やFAX等での受付は行っていない。料金の支払いもじゃらんネット内で行うため、当日、農園内での金銭のやり取りはない。

農園は市街地にあるものの、場所がわかりにくく、カーナビに住所を入力しても正しく案内されないこともある。また、予約時間に遅れてくるお客さんもおり、その対応に苦慮している。

<セミナーで検討した改善内容と実践内容>

(1)看板の設置

- ・農場や駐車場に農園の看板を設置する。
- ・農園の入口となる道路沿いの空き家に依頼して、いちご狩りののぼりを設置する。
→市の条例等もあり、いちご狩り実施の時間のみ農場へののぼりと仮設の看板を設置。

(2)「じゃらんネット」上に必要な情報を掲載

- ・農園の入口の写真(大通りから農園に入る場所等)を掲載する。

【榎谷農園の入口】



- ・車で(カーナビを使用して)来られる方への注意喚起の文を掲載する。
- ・時間に遅れて来られた際の対応(次のお客様がおられるため、終了時間は変更できない等)を掲載する。 ※いちご狩り開始前の説明時にも再度説明し、了承いただく。

→Google マップのストリートビューを活用

上記写真を掲載予定だったが、ストリートビューの話があり、写真の掲載はやめ、農園入り口から農園までの道を Google マップのストリートビューを使って確認できるようにした。農園のいちごハウスの中までストリートビューで確認できるようになった。

○経営改善の取組効果

(1)仕事の効率化・隙間時間の有効活用

「ToDo リスト」「ToWeek リスト」の活用により、家族やパート従業員とのコミュニケーション面も良くなり、仕事の効率化を図ることができた。スマートフォン等を活用したリストの共有も考えたが、現段階ではホワイトボードや紙に書き出す方法を選択し、義父母も使いやすい方法としたことで、家族全員でリストが共有でき、義父母に対応してもらうことも可能となった。

「隙間時間にやってほしいこと」「ToWeek リスト」により優先順位を共有化し、改めて確認しなくても、家族誰もがパート従業員に指示できるようになり、時間の有効活用につながっている。

(2)「いちご狩り」向け農園場所の案内方法の改善

農園までの経路と場所を Google マップで確認できるようにしたことで、道に迷うお客様が減少するとともに、時間に遅れるお客様も減少した。また、説明したい内容を事前にじゃらんネットで確認してから来園するお客様が増え、いちご狩り実施前の説明時間の短縮もでき、業務の効率化にもつながった。

○今後の経営改善への取組意向

当初は、介護施設に勤めながら夫を手伝う(サポートする)という軽い気持ちで農業に従事していたが、徐々に自分が担っていくことが増え、受け身でいた自分から提案をしながら一緒にやっていくことへと一歩進めたように感じた。

今後は、夫の生産部門での作業負担を減らし、私ができることを増やしていきたい。また、働くパート従業員やいちご狩り等のお客様に向け、手洗い場やトイレを設置し、働きやすく利用しやすい環境を整えていきたいと考えている。夫、義父母としっかり話し、改善が必要な点を見つけ、優先順位づけて対応、実践し、経営改善に取り組んでいきたいと思う。